

## 国際ロータリー第2680地区

### 2023-24年度 第4回 戦略計画委員会 議事録

開催日時 : 2023年9月20日(水) 16:00~18:00

開催場所 : 神戸三宮東急 REI ホテル ローズ

出席者 : 安行英文ガバナー(三田)、矢坂誠徳ガバナーエレクト(神戸西)、城守ガバナーノミニ(姫路)、山口宰次期代表幹事(神戸西)、勇正一郎 RLI 委員長(尼崎東)、太田叶子 RLI 副委員長(尼崎東)、橋本雅彦 RLI 副委員長(姫路東)、天羽公夫クラブ管理運営委員長(甲子園)、高瀬英夫委員長(西脇)、杉本啓二(伊丹)、永瀬隆一(芦屋川)、竹原善記(宝塚)、和田孫博(神戸東灘)、岡田和也(姫路西)、阪本渚子(宝塚ユニバース衛星)

議事録作成人: 阪本渚子

#### 次第

1. 開会挨拶 安行ガバナー

杉本会員挨拶

2. 11月4日(土) 戦略計画セミナーについて 高瀬委員長

##### ①案内メール

- ・既に送付済み。事前アンケートは後日、送付予定。
- ・参加要請はクラブ会長、会長エレクト、クラブ戦略計画委員長のうち2名。

##### ②開催場所

神戸駅前研修センター

〒650-0027 兵庫県神戸市中央区中町通2丁目3-1

(来月の委員会はこちらで開催予定)

##### ③次第(案)

- ・前回の委員会からスケジュールに変更あり。クラブの事例紹介を2クラブ15分ずつ午後から午前中に変更する。
- ・ワークショップとグループディスカッションは、それぞれ50分ずつに変更。
- ・各プログラムの時間については検討が必要。(※タイムテーブルの網掛けの時間は、変更前のもの。)

・レイアウトの変更や移動も含めたタイムスケジュールを組む。

10:30 開会挨拶・開催主旨説明（20分） 安行ガバナー

10:50 なぜクラブにビジョン・戦略計画が必要か（70分） 矢野副委員長  
2クラブ（姫路西RC、加古川中央RC）の事例紹介（各15分ずつ）

12:10 昼食

13:00 戦略計画の立案のワークショップ（50分） 和田委員

14:20 グループディスカッション（50分）

15:40 講評・今後に向けて（20分） 矢坂ガバナーエレクト

16:00 解散

（和田）事例紹介を午前中に持ってくるのであれば、昼食の時間を遅らせてもよいのではないかと。午後からのワークショップは40分～50分あればよい。

→部屋の移動や、レイアウト変更の時間も考慮する必要がある。

（勇）グループディスカッションも実質50分くらいを考えている。

#### ④事例紹介クラブ 2つ

- ・姫路西ロータリークラブと加古川中央ロータリークラブに願います。
- ・加古川中央RCのクラブアンケートは、事例紹介の時に紹介して頂く。

#### ⑤事前アンケートについて

- ・クラブ持続可能性チェックと、クラブの戦略計画についてのアンケートはセミナー前に送付する。セミナーの出欠回答と併せて、回答を提出してもらう。（加古川中央RCのアンケートは当日のお土産として参加者にお渡しする。）

（和田）クラブ戦略の事前アンケートと、参考資料の持続可能性チェックは参加者が混乱しないか。持続可能性チェックはセミナーのベースになってくるのか。セミナー後に配布するほうが良いか。

→事前に各クラブの状況を把握し共有してもらうために、どちらもセミナー前に送付する。

（城）配布された案内に「予習して頂けるように資料を事前に配布する」という文言があった。これは何を指しているのか。

→案内を送付した時点では、クラブ持続可能性チェック・戦略立案ガイド・クラ

ブアンケートを添付予定であった。今の話では、クラブアンケート（会員の満足度調査用）は当日のお土産として渡したほうが良さそう。

ただし、戦略立案ガイドは当日の教材になる。

(和田) クラブ持続可能性チェックはどこからきているのか。

→矢野パストガバナーが、マイロータリーからダウンロードできるクラブ健康チェックを2680地区用に編集されたもの。以前、全クラブから回答を貰い、グラフ化して、これを使ってセミナーをしたこともある。クラブの現状把握が目的。

(矢坂) セミナーを成功させるためには、クラブに火がついている状態であることが大切。そのためには、事前に参加者の意識を高揚させておくことが重要。当日の矢野パストガバナーの講演テーマである「なぜクラブに戦略計画が必要か」ということについて、前もってクラブの中で参加者が考え、討議しているかどうかで、セミナーの成果は異なる。前もってクラブの例会などで導火線として扱って頂ければ、参加者も意識を高くして来てくれるのではないか。

(城) 持続可能性チェックは参加予定者に事前にやってもらい、委員会に提出してもらうようにする。当初予定していたアンケートと併せて送付し、回答を事前回収する。

(和田) アンケート回答を回収したら、委員会で集計し、セミナーで報告する義務が出てくるのではないか。

→クラブ持続可能性チェックの集計の仕方はフォーマットがある。集計結果よりも、各参加者に火をつけることが大切。集計結果をセミナー中に発表する必要はそこまでない。

#### ⑥クラブに「卓話要請のご希望」のお願い

- ・セミナー後に各クラブ会長へ卓話要請をする。
- ・早めに要請をする。

#### ⑦地区委員会総がかりでのセミナーにしたい

#### ⑧RLI委員会へのお願い

- ・グループディスカッションはRLI委員会に担当して頂く。
- ・セミナー終了後に参加者に回答してもらうアンケート（ネットのフォーム）を戦略委員会で作成する。回答収集はガバナー事務局に依頼する。

(勇) グループディスカッションの目的をどこに置くか。

→ディスカッションのグループ編成も検討が必要であるが、今のところは事前にアンケートをとってエリアグループごとに編成することを考えている。

→セミナーではまず各クラブに火をつけることが大事。

(城) ディスカッションのテーマを、戦略委員会から RLI 委員会に早めにお伝えすることが大切。

(勇) 最終的には各クラブでモチベーションを高めてクラブの戦略計画を作ることが目的であるが、そのためのディスカッションの設問として (1) それぞれのクラブの現状の認識と共有、(2) なぜ1歩踏み出せなかったのか、(3) 自分のクラブで作るためにはどうしたらよいかについて扱うことを考えている。これらの意見交換ができれば、イメージを持って参加者が自クラブに帰れるかと思う。

(安行) BE・KNOW・DO をディスカッションにどのように取り入れていくかが大切。自クラブの課題を見つめなおし、どうあるべきか、クラブの強みと弱みを知り、どうしてくかを話し合い、導いていくことが大切。

(竹原) 事前アンケートをまとめ上げることは時間的に難しい。ディスカッションをいかに各班同じ課題で行うかが大切。ディスカッションのポイントを次回の委員会で早急に決めて、準備していくことが大切。RLI 委員会の中での最初の方向性、ディスカッションや答えに共通性を持たせるように事前に話しておいたほうがよいのではないか。

(永瀬) グループディスカッションの各班の意見は集約するのか。

→最終的に参加された全てのクラブが戦略計画を作ろうと思ってもらえる方向づけはしようと思う。

(太田) 各テーブルのディスカッション終了後にアンケートはするのか。(参加者全員を対象とした評価書) RLI 委員会ではネット上のフォームでアンケートをとり、ガバナー事務局に取りまとめてもらう。

#### ⑨グループディスカッションのテーブル分けについて

- ・参加者数のとりまとめをした後に、クラブ数の少ないところ同士を同じ班編成にする。
- ・地区正副委員長、ガバナー補佐は今後の活動のためにオブザーバーとして、各テーブルに参加していただく。
- ・パーテーションを使用する。
- ・ディスカッション前後の会場レイアウトは、委員メンバーと参加者が協力して行う。

(勇) 1テーブル16名では多い。参加者全員の意見を引き出すには、12名が最大のように思う。

#### ⑩セミナー後のアフターフォローについて

(山口) 参加された方には火をつけてもらういい機会になると思う。その後、どのように各クラブで継続、つなげていけるかを委員会でも後押し、サポートしてい

くことが大切。

→最終的には、作成したクラブ戦略計画を提出してもらおうほうがよいのではないか。

(城) アフターフォローについては、クラブ管理運営委員会とタイアップするのがよいのではないか。

→クラブ管理運営委員会もクラブの活性化を目的としている。来年の4月にセミナーを予定しており、対象者を会長ノミニーとしている。

(安行) 長期計画は数値化した評価をすぐにできないのが難しい。意識したかどうかの話になりかねないので、どのようなもので評価にもっていかかが問題。そこをクラブ運営委員会と一緒に考えていってはどうか。

→クラブ持続可能性チェックは数値化が可能のため、1年ごとに行い変化を測ってもらおうというやり方も可能。

→その場合、行う時期を地区で声掛けしていくことが大切。

(和田) 初年度では各クラブで作成してもらうことを主とし、以降は毎年セミナーの場で、しっかり運用されているかを確認する。

→セミナーも継続的にやっていくことが大切。

(天羽) クラブ活性化で1番大切なのは会長のモチベーション。会長予定者にどのようにモチベーションをあげてもらうかが、管理運営委員会の役割。数値化することは難しく、できるとしても満足度チェックくらい。

(山口) 会長エレクトと会長ノミニーの間で切れてしまわないように伝えて頂くことが大切。

(永瀬) 11月の戦略計画セミナーと4月のクラブ管理運営委員会主催のセミナーは対象者が異なるということになる。

(勇) 今後、クラブ持続可能性チェックなどを用いて定点観測していくときに、管理していくのはこの委員会とクラブ管理運営委員会のどちらになるのか。

→まずは各クラブで委員会活動をして頂くことが一番重要。人数が足りないクラブは、クラブ全体で共有して頂く。

(橋本) PETS で毎年会長エレクトがチェックシートを提出することが定点観測となるのではないか。

→戦略委員会からガバナーエレクトに PETS のテーマの1つとして扱っていただけるようお願いする。

(杉本) 伊丹ロータリークラブでは100年委員会というのが5年前に出来た。ロータリーは基本単年事業であり、それをいかに継続していけるかが問題。クラブの意識を1つにして協議をしていく。

→戦略という言葉に抵抗を持つ方もいるので、戦略という言葉にこだわらず、それぞれのクラブにあったネーミングでよい。

⑪今後のセミナー会場として

以前検討していた神戸女子大学、神戸学院大学、園田学園女子大学は、今回は11月4日の日取りが学園祭と重なっていたため使用できないが、日程があれば今後3つの大学とも使用させていただけるという前向きなお返事を大学事務局から頂いた。

⑫本日の議論に付き、今回のセミナーと今後をキーワードで纏めると、

- ・「火をつける」：クラブ・参加者をいかにその気にさせるか
- ・「つけた火をいかに継続させるか」：
  - ・ガバナー、エレクト、ノミニー、ガバナー補佐の連携
  - ・全委員会が協力しあう（横のつながり意識）
  - ・地区チーム研修、PETSでのテーマに取り上げてもらう
  - ・クラブ間で情報共有（地区戦略計画委員会が接着剤の役目を果たす）

3. その他

永瀬幹事

10月19日（木）15：00～17：00

神戸駅前研修センターにて開催予定

4. 閉会挨拶

矢坂ガバナーエレクト